

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

令和5年度10月号

○ 概要

- (1) 令和5年度10月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は6,922億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+7.3%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,131円（伸び率▲1.3%）であった。（→P.1,2）
調剤医療費の内訳は、技術料が1,922億円（伸び率+8.0%）、薬剤料が4,987億円（伸び率+7.0%）、薬剤料のうち、後発医薬品が985億円（伸び率+6.3%）であった。（→P.4,5）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,162円（伸び率▲2.6%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、1種類当たり投薬日数、1種類1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.77種類（伸び率▲0.0%）、26.7日（伸び率▲2.8%）、70円（伸び率+0.3%）であった。（→P.8,9）
- (3) 内服薬の薬剤料3,913億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+217億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の739億円（伸び幅+58億円）で、伸び幅が最も高かったのは62 化学療法剤の+88億円（総額227億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	3,913 億円 (+217 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(739 億円)	21 循環器官用薬 (561 億円)	11 中枢神経系用薬 (547 億円)
0歳以上 5歳未満	21.2 億円 (+0.1 億円)	44 アレルギー用薬 (6.8 億円)	22 呼吸器官用薬 (4.1 億円)	61 抗生物質製剤 (3.0 億円)
5歳以上 15歳未満	109.8 億円 (+22.2 億円)	44 アレルギー用薬 (35.0 億円)	11 中枢神経系用薬 (28.0 億円)	62 化学療法剤 (11.3 億円)
15歳以上 65歳未満	1,456 億円 (+92 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(278 億円)	11 中枢神経系用薬 (276 億円)	42 腫瘍用薬 (174 億円)
65歳以上 75歳未満	843 億円 (▲1 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(192 億円)	42 腫瘍用薬 (151 億円)	21 循環器官用薬 (138 億円)
75歳以上	1,483 億円 (+104 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(261 億円)	21 循環器官用薬 (251 億円)	42 腫瘍用薬 (198 億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,131円（伸び率▲1.3%）で、最も高かったのは高知県（11,080円（伸び率+0.9%））、最も低かったのは佐賀県（7,830円（伸び率+0.2%））であった。
また、伸び率が最も高かったのは熊本県（伸び率+1.0%）、最も低かったのは愛媛県（伸び率▲3.1%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注）}	84.7 %	+1.5 %
薬剤料ベース	19.8 %	▲0.1 %
後発品調剤率	81.0 %	+1.5 %
（参考）数量ベース（旧指標）	60.3 %	+1.2 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+6.3 %	+35.4 % (10歳以上 15歳未満)	▲4.2 % (0歳以上 5歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.8 %	29.7 % (100歳以上)	12.5 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	84.7 %	89.0 % (100歳以上)	81.0 % (5歳以上 10歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	837 億円 (+50 億円)	21 循環器官用薬 (256 億円)	11 中枢神経系用薬 (145 億円)	23 消化器官用薬 (99 億円)
0歳以上 5歳未満	8.0 億円 (▲0.4 億円)	44 アレルギー用薬 (4.1 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.5 億円)	62 化学療法剤 (0.5 億円)
5歳以上 15歳未満	21.1 億円 (+4.2 億円)	44 アレルギー用薬 (10.7 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.4 億円)	11 中枢神経系用薬 (1.9 億円)
15歳以上 65歳未満	294 億円 (+22 億円)	21 循環器官用薬 (72 億円)	11 中枢神経系用薬 (68 億円)	44 アレルギー用薬 (31 億円)
65歳以上 75歳未満	177 億円 (▲1 億円)	21 循環器官用薬 (68 億円)	11 中枢神経系用薬 (22 億円)	23 消化器官用薬 (22 億円)
75歳以上	337 億円 (+25 億円)	21 循環器官用薬 (116 億円)	11 中枢神経系用薬 (54 億円)	23 消化器官用薬 (50 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,299 円	1,666 円(北海道)	1,113 円(佐賀県)
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲2.2%	+0.3 % (秋田県)	▲4.0 % (東京都)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	84.7 %	90.9 % (沖縄県)	81.1 % (徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.8 %	22.8 % (鹿児島県)	17.4 % (京都府)
後発医薬品調剤率	81.0 %	86.1 % (沖縄県)	76.9 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	60.3 %	67.5 % (沖縄県)	56.6 % (東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和5年度10月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。